

批評

水彩畫手引 三宅克己著

小石川久堅町 日本葉書會

上製窓クローズ 定價金九十錢
四六版

此書が評者の手許に來てからまだ日が淺く、熟讀する間がない故細評は他日として、爰にはたゞ瞥見の感を述べて紹介だけして置く。著者の苦心談はハガキ文學の新年號にあるから詳しいことはそれに就いて見られたい。

書は四六判クローズ金銀刷の立派な製本で、中には會てエハガキとして世に出て水彩十景が、滌い色の羅紗紙に貼られて挿入してある。其他著者の筆になつた大小の寫真版、お定りの給具箱や三脚の木版圖もある。本文は先づ用具の説明、寫生の描法、寫生畫の解説等に分れてゐて、從來世に行はるゝ類書に比して格別新しい説も見えないうやうであるが、説明はちと冗長と思はるゝ程親切に書てあつて、恰も氏に逢つて直接に其説をきくやうな感がある。其文章もかの墨繪講話のやうに固苦しくないのは何より嬉しい。巻尾の三四十頁は氏が風景畫に對する意見で兎角迷ひ易い初學の人々に

は最もよき訓戒であらうと思ふ。(うぐくす)

受験者のために

◎師範、中學、高等女學校の圖書教員檢定試験を受けんとする方から種々御照會があらますから、爰に其手續の要領だけを御知らせします。詳細の事を知りたい方は東京牛込區市ヶ谷富久町九十九番地眞野紀太郎氏宛にて返信料を添へ御問合ありまし。◎檢定試験の出願期限は毎年五月三十日にして、教員檢定願に履歴書并ひに醫師の作りたる身體検査書を添へて、地方廳を経て文部大臣宛に差出す事。

◎手数料は金三圓。

◎受験科目は毛筆畫、用器畫。或は鉛筆畫、用器畫の二部で單に用器畫のみの試験を受ける事も出来る。

◎試験を受ける科目は、鉛筆畫では石膏若くは鳥獸の剝製の寫生、○彩色の大意、○圖案、○用器畫法(平面幾何畫法、投影全部、透視畫法)◎教授法等である。

◎寫生は正しく輪廓がとれて、手際よく影がつつけられ、よい。彩色の大意も圖案も從來は簡單なものであつた。

◎用器畫法は一番大切である、これが爲めに年々出願者の四分の三は排される、夫故志望者は充分用意せられたい。

◎教授法は是迄教育に經驗のある人には格

別面倒でもあるまい、たゞ氣後れのせぬやうに用心すればよい。

◎若し次號に餘白があつたら去年の豫備試験問題を示しませう。

寫生會

○月曜畫會(所在近江國神崎郡山上村山脇毅宅○明治三十八年十二月創立)○會員山脇毅、加藤太市○熱心家のほか入會を許さぬ方針○每週二回研究會を開き臨畫及び寫生(當分鉛筆畫及一色畫)をなす○作品は追て天下先生の批評を請ふ計畫(以上山脇氏報)

近事雜聞

△去月十四日より神田三崎町幼稚園内に開かれし水彩畫講習所は、其後入學希望者多く、二三の婦人熱心家もありて程なく満員に至るべしといふ。

△丸山氏の揮毫にかゝる春鳥會エハガキ第三集「水彩景色」は淺間山下の風物を寫せしものにて印刷の出來もあしからず、發賣所は日本橋通二丁目松聲堂なり。

口繪につきて

○傘の圖は競技會の意匠「車」の一等にて鹿兒嶋高畑氏の手になれり。船は京都川股氏の筆。綱引は第十六回「力」の三等にして東京山田氏の作なり。此圖輪廓は惣て銀泥なりしも印刷の都合上墨刷とせし故多少面白味を失ひたり。